

# 令和6年度 みらいホーム 事業報告書

## 1 総括

みらいホームは31名の入居者が5つのユニットに分かれ生活している。全ユニットが開設以降6年以上経過しており、殆どの入居者はホームでの生活が定着し、日常的に安定して過ごせていたと感じる。しかし、今年度は2名の入居者が疾病により長期入院を余儀なくされた。家族や後見人と連携を図りながらホームにて支援にあたったが、特に入院中のケアや退院後の日中活動先の変更等については、日頃身近にいて入居者の様子を把握しているホームの役割は重要なものであると感じた。2名とも体調が回復し、退院後もこれ迄と変わりなくホームで生活しているが、支援体制を厚くし、支援内容の幅も広がっている。これまで医療との連携が必要であると感じながら、なかなか着手できなかったが入居者の高齢化により、健康維持、体調不良時の早期対応のため訪問診療の導入等医療との連携について具体的な検討が必要である。数年来の課題である人材不足については、今年度においても充足ができず、在籍している職員の勤務増や勤務時間の調整によりなんとか支援体制を維持した。職員のスキルアップについては、まだ課題はあるものの個別支援計画の共有が浸透してきており、徐々に支援の統一が図られてきていると感じる。

## 2 事業概要

- 1) 施設名 みらいホーム  
(ユニット：アンダンテ、クローバー、藤ハウス、花の樹、カトレア)
- 2) 事業種別 共同生活援助（介護サービス包括型事業所）
- 3) 所在地 東京都小平市大沼町7-5-33
- 4) 経営主体 社会福祉法人未来
- 5) 利用定員 31名  
(アンダンテ4名、クローバー7名、藤ハウス6名、花の樹7名、カトレア7名)
- 6) 利用現員 31名（令和7年3月31日現在）

ユニット	定員	現員
アンダンテ	4名	4名（内男性4名）
クローバー	7名	7名（内男性4名、女性3名）
藤ハウス	6名	6名（内男性6名）
花の樹	7名	7名（内男性6名、女性1名）
カトレア	7名	7名（内女性7名）

- 7) 法人認可年月日 平成14年12月13日
- 8) 事業開始年月日 平成15年1月1日
- 9) 職員  
管理者 1名  
サービス管理責任者 2名（兼務：常勤換算2.0）  
世話人 17名（常勤換算12.2）  
生活支援員 26名（常勤換算14.2）

## 3 基本理念

一人ひとりの自己実現の支援  
互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築  
安心と希望のもてる生活

## 4 基本方針

- 1) 安定した日常生活の保障
- 2) 入居者一人ひとりの主体的な生活の支援
- 3) 入居者の相談支援

#### 4) 安心できる将来への支援

#### 5 実施事業（活動内容）

- 1) 居室の提供
- 2) 食事の提供
- 3) 洗濯、掃除等の生活支援
- 4) 健康管理
- 5) 日中活動先（福祉サービス及び職場等）、関係機関との連絡、調整
- 6) 入浴等生活行為の支援
- 7) その他日常生活に必要な支援

#### 6 日 課

5時00分～	7時30分	起床
7時30分～	9時30分	通所事業所、会社へ出勤
15時40分～	17時00分	帰宅
16時00分～	20時30分	入浴
18時15分～	20時00分	夕食
20時00分～	24時00分	就寝

#### 7 重点課題・目標に対する成果と課題

##### 1) 活動

(1) 入居者が安心して充実した生活を送れるよう支援する。

- ① 入居者一人ひとりが生活の主体者であるということを基本に、個々に合わせた支援の充実を図る。

##### 【成果と課題】

多くの職員は入居者と長年関わってきていることで、一人ひとりの特性や嗜好、生活の流れなどを把握しており、このことが入居者の安心感につながっていると思われる。以前は入居者への対応が職員個々の判断や感覚で行われ、対応の違いで入居者の混乱を招くということが散見されていたが、令和4年度から職員間の情報共有や意見交換の活発化に取り組み、徐々に支援方法の統一が進んでいる。合わせて職員の都合ではなく、入居者の利益を最優先に考えた支援についても考え方が浸透してきているように感じる。ただし、朝の送り出しや入浴など忙しい時間帯に声かけが乱暴になる場面も依然見られており、改善に向けて取り組んでいる。個別支援計画は、昨年度改善に取り組み、本人の希望の反映や特性に応じた支援方法など、具体的に活用できるものになっていると共に、計画の評価や見直しも概ね適正に行えていると感じている。ケース記録は入居者の心情面や健康面の詳細、その後の経過などを明確に記載することが長年の課題であるが、徐々に改善は図られているものの、まだ、記載不足や内容がわかりにくいもの、表現方法に課題が見られるものもあるため、引き続き改善に向けた取り組みが必要である。

- ② 感染症対策を徹底する。

##### 【成果と課題】

共同生活による感染リスクを考慮し、共有スペースで密とならないような対応や消毒、検温、換気、職員のマスク着用等を継続して行った。新型コロナウイルス等の感染症に罹患した入居者はいなかった（自宅へ帰宅中に罹患した入居者は1名）。

- ③ 事故防止を徹底する。

- ・服薬管理方法等のマニュアルを遵守し、誤薬等の事故を防止する。
- ・無断外出行為のある利用者の安全確保のため、見守りを徹底する。また、必要止むを得ない場合は本人、家族の同意を得て夜間の建物施錠を行う。

- ・整理整頓や環境への配慮など転倒等によるけがの防止に努める。
- ・入居者の行動特性を理解し、支援の統一を図ることにより未然に事故を防ぐ。

【成果と課題】

5月にユニット花の樹において利用者が怪我をする事故が発生。詳細は「8 事故報告」に記載。

(2) 高齢化に向け、入居者や家族のニーズにあわせた支援を行う。

- ① ホームが生活全般のコーディネートをしている7名の支援内容を検証したうえ、必要に応じて支援の見直しや拡充を行う。
- ② 令和5年度に実施した「生活のノート」の再調査（毎年実施予定）を行い、家族が行っている支援とグループホームが行っている支援を共有する（通院、買い物、行政手続き、小遣い管理、散髪など）。また、入居者や家族のニーズに応じてグループホームへの支援の移行時期を検討する。

【成果と課題】

- ① 全入居者31名の内、すでにグループホームで生活全般の支援を行っている7名については、これまでと同様に通院同行、預り金管理、移動支援利用時の予約、行政等手続きの補助等の支援を継続した。この7名の内1名が8月に疾病による手術を行い、入院準備や入院中の身の回りの支援などを行った。他の6名については生活に大きな変化はなく、支援の拡充は行わなかった。
- ② 昨年度調査した「生活のノート」を基に、1名の入居者の通院同行を昨年10月より徐々にグループが行うよう取り組み、今年度は完全に移行することができた。この他の入居者については、今年度実施した再調査においても、すぐにグループホームへ支援を移行する希望はなく、特に変化はなかったが、1名の家族から、両親が元気なうちに家族が準備しておく内容等についての相談があり行政等の手続き、預金等の管理等についての共有を図った。また、①に記載の入院した1名の入居者については機能低下、リハビリの必要性から、これまで通っていた就労継続支援B型事業所への通所が困難となり、通所先変更のため、事業所の見学に同行した。送迎サービス等のより日常生活支援の手厚い就労継続支援B型事業所と介護保険のデイ・サービスの併用利用で新たな通所先を確保できた。3月に入居者の母親が急逝し、これまで母親が中心となっておこなっていた通院同行や行政手続き等の支援については、今後家族と相談しながらグループホームが行う必要があると考えている。

(3) 個別支援計画の作成・評価の充実を図る

- ① 長期的な視点や生活全般の目標設定を計画に盛り込むとともに、支援の統一が図れるよう、より具体的な支援内容を盛り込んだ計画を作成する。
- ② 個別支援計画を全職員で共有する。
- ③ 個別支援計画に基づいた支援を行い、支援経過の記録や会議等で共有するとともに、それに基づいた評価、見直しを実施する。

【成果と課題】

1) - (1) -①に記載の通り。

4) グループホームなどの住まいの拡充

- ① 新規グループホーム開設に向けた検討を行う（令和8年度以降開設見込）  
開設までに時間を要すことから、継続的に説明会や面談等を実施し、法人内のグループホーム見学会や希望聴取により生活イメージを共有する。
- ② 感染症対策やその他緊急等に対応可能な間取りについて情報等を収集する。  
職員から意見等を聴取するとともに、住宅情報誌等を参考にし、感染症対策の間取りなどの情報を収集する。また、他法人のグループホーム等の間取りについて情報を得る。

### 【成果と課題】

令和8年度の開設に向け、購入予定の建物の改修工事について、設計事務所と打合せを行い図面案が完成した。3月に入居候補者6名の家族に対し計画の進捗状況等の説明会及びニーズ把握のための面談を実施した。

## 2) 人材確保と育成

(1) 主たる職員常勤2名、生活支援員等常勤換算3.0名を採用する。

### 【成果と課題】

生活支援員等5名(常勤換算2.5名)を採用したが目標の常勤換算3.0にはまだ0.5名不足している。また、主たる職員の採用も進んでおらず、目標より合計で2.5名不足している。支援体制が不足した際は、在籍している職員の勤務増や勤務時間の調整で対応した。

## (2) 主たる職員の育成・指導

- ① 新規に採用した主たる職員は、通所事業所にて研修を実施し、法人内の事業、利用者支援の基本方針、職員間のコミュニケーションについて学ぶ。
- ② 入居者の一人ひとりの生活全般におけるきめ細やかな支援を行う。
- ③ 入居者の行動の背景や心情に着目した支援を行う。
- ④ 支援計画に基づいた支援を実施するとともに支援経過の記録と共に行動の背景や心情の考察を行う。
- ⑤ 支援及び記録内容等について、その他の職員と共有を図るとともに必要に応じて指導を行う(管理者や現場責任者がケース記録を随時確認し、必要に応じて助言指導を行う。職員の業務チェック表で実施の有無を確認する)。
- ⑥ その他の職員とコミュニケーションを図り勤務のコーディネートを行う。

### 【成果と課題】

- ① 職員の応募はなく主たる職員は採用しなかった。
- ② 全ユニットとも、入居者からの生活の意向を丁寧に確認し、主たる職員が必要に応じて家族等や関係機関と連絡を取りながら生活全般における支援を行うことができた(衣替え、整容、通所先への提出物・持ち物、移動支援事業所への連絡・調整、通院、行政手続、健康に留意した食事提供等)。
- ③～⑥ ケース検討会議や各種記録により、個別支援計画の共有を図り、計画に基づいた支援を行った。日常の支援はもとより、新たな支援の方向性を検討する際は、主たる職員より、その他の職員に対し入居者の心情面に配慮した視点を説明したうえで具体的な支援方法を提案する場面も多くみられるようになり、支援スキルの向上が図られていると感じている。記録についても同様に主たる職員の記録内容は向上してきている。ただし、他の職員への指導はまだ不足していることもあり、記載漏れや支援経過が分かりにくいものがみられた。

## (3) その他の職員の育成・指導

- ① 個別支援計画を把握し、計画に基づいた入居者支援を丁寧に行う。
- ② 支援の統一を図るとともに支援技術のノウハウを蓄積する。
- ③ ケース記録に利用者の様子や支援経過を丁寧に記載すると共に行動の背景や心情の考察を行う。

### 【成果と課題】

- 1) - (1) ①に記載の通り。

## 3) 経営管理

(1) 月次試算を正確に行い、計画的に予算を執行する。

### 【成果と課題】

月次試算表の分析により月々の経営状態の把握に努めた。6年度は入居者2名が長期入院

し、(約5か月と約1か月)訓練等給付費及び都加算の収入減や共有スペースのエアコンの修繕及び買い替えの他、人材紹介手数料などの支出増が影響し、当期資金収支差額は100万円の赤字収支となった。2名の利用者の体調は安定したため、7年度は黒字に転換する見込みである。

(2) 入居者の経済的負担の軽減

- ①節電、節水等節約の履行
- ②計画的な食材の購入

【成果と課題】

節電及び食味期限切れによる廃棄処分や食品ロスがないように計画的な買い物、適量の調理を実施しているが、水道光熱費及び食材費ともに価格高騰により、前年度比で水道光熱費は約40万円、食費は約50万円増額し、合計約90万円増額となった。経費の増額に伴い、年間で利用日数が多い入居者4名は実績に応じ約1万5千円～5万円の追加徴収となった。

(3) 将来の建物修繕等に備え、家賃収入等から資金を計画的に積立てる。

【成果と課題】

法人所有の建物である、クローバー及びカトレアについては、建て替えや大規模修繕用の資金計画に基づき、年度末に積立を実施した。

《クローバー》

	令和5年度末積立額	令和6年度積立額	令和6年度末積立額
建て替え用資金	5,400,000円	900,000円	6,300,000円
大規模修繕用資金	1,171,000円	230,000円	1,401,000円

《カトレア》

	令和5年度末積立額	令和6年度積立額	令和6年度末積立額
建て替え用資金	4,500,000円	900,000円	5,400,000円
大規模修繕用資金	1,200,000円	240,000円	1,440,000円

8 事故報告

5月 ユニット花の樹において、グループホーム建物内で突発的に走り出した入居者の洋服を職員がとっさにつかみ、体勢を崩した入居者が廊下の壁に耳をぶつけてしまい、打ち身によるけがをしてしまう事故が発生した。当該入居者の日頃の様子から、走り出した後に危険な行動をとる可能性は低かったことや周囲に他の入居者等もいなかったことから、無理に身体を抑える必要はなかったと考えられる。この反省を踏まえ、職員間で当該利用者の特性を改めて確認し、適切な支援を行うことについて共有を図った。また、今回のように入居者が走り出した際等に無理に行動を抑制すると入居者が無理な姿勢となり、けがにつながるリスクがあることについても確認を行った。

9 その他の課題・目標

1) 市内グループホームとの連携・強化

【成果と課題】

みらいホームの施設長が世話役としてグループホーム連絡会へ参画し、年4回の定例会へ参加した(4月、7月、10月、2月)。定例会では、災害対策や避難訓練の実施状況報告、グループホームの見学会及び近況報告会を行った。各団体が工夫している内容や苦慮している状況等について意見交換や質疑応答が行われた。

## 2) バックアップ施設による支援

### <バックアップ施設>

- ・ワークセンター夢の樹
- ・夢の樹みどり
- ・小平第二みどり作業所
- ・夢風船

(1) 巡回ーバックアップ施設担当職員が巡回し入居者との交流を図る。

#### 【成果と課題】

全ユニットとも、入居者の健康管理等の相談、通院同行、管理業務の補助を行ったほか、クローバーについては、入居者の意向により、月に1回ホームに巡回し入居者と交流を図った。

(2) 行事参加ー入居者が施設の行事に参加することにより余暇活動の幅を広げる。

#### 【成果と課題】

企業就労中の入居者1名が対象となっており、6年度はワークセンター夢の樹の行事に1回に参加した。

(3) 緊急対応ーホーム職員の急なけが、病気、その他の理由により支援者が一時的に不足した際は、グループホーム施設長からの要請によりバックアップ施設職員が入居者の直接支援を行う。

#### 【成果と課題】

緊急時の対応等でバックアップ施設に要請する事案は発生しなかった。

## 3) 夜間等緊急時の対応

### 【成果と課題】

緊急時は、管理者と主たる職員の計5名が対応することとなっているが、夜間に緊急体制を要する事案は発生しなかった。

## 10、実施状況

1) サービス実施日数	期間	自：令和6年4月1日	至：令和7年3月31日
(1) アンダンテ		365日	
(2) クローバー		365日	
(3) 藤ハウス		365日	
(4) 花の樹		365日	
(5) カトレア		365日	

## 11、利用状況

1) 入居者延人員	8,778人
2) 一日平均利用人員	24.0人

ユニット	入居者延人員	一日平均利用人員
アンダンテ	1,066人	2.9人
クローバー	2,145人	5.9人
藤ハウス	1,710人	4.7人
花の樹	1,924人	5.3人
カトレア	1,933人	5.3人
合計	8,778人	24.0人

1 2、入居者状況（令和7年3月31日現在）

1) 年齢

- ・ 20歳以上30歳未満 1名
- ・ 30歳以上40歳未満 8名
- ・ 40歳以上50歳未満 10名
- ・ 50歳以上 12名

ユニット	20代	30代	40代	50代
アンダンテ		1名	2名	1名
クローバー		2名		5名
藤ハウス		1名	3名	2名
花の樹		4名	1名	2名
カトレア	1名		4名	2名
合計	1名	8名	10名	12名

2) 障害の状況

(1) 障害の状況

愛の手帳2度	13名	(内身障手帳所持 2名)
愛の手帳3度	11名	(内身障手帳所持 1名)
愛の手帳4度	7名	(内精神保健手帳所持2名)
身体障害者手帳1級	1名	(内愛の手帳所持 1名)
身体障害者手帳2級	2名	(内愛の手帳所持 2名)
精神保健手帳1級	1名	(内愛の手帳所持 1名)
精神保健手帳3級	1名	(内愛の手帳所持 1名)

(2) 障害支援区分

- ・ 区分2 2名
- ・ 区分3 7名
- ・ 区分4 9名
- ・ 区分5 11名
- ・ 区分6 2名

ユニット	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
アンダンテ	1名	3名			
クローバー		1名	4名	2名	
藤ハウス		2名	2名	2名	
花の樹		1名	1名	4名	1名
カトレア	1名		2名	3名	1名
合計	2名	7名	9名	11名	2名

3) 居住状況

管内居住 25名      管外居住 6名

4) 性別

男性 20名      女性 11名

1 3 環境の整備

施設内外の美化と利用者周辺の整理整頓につとめ、危険の防止に努めた。

#### 1.4 健康管理

- 1) 健康診断・身体測定の結果を基に健康状態の把握に努めるとともに、関係事業所や家族との連携を密にし、健康管理・疾病の予防に努める。

##### 【成果と課題】

食事作りについては、健康管理のための栄養バランスを意識し肥満防止について注意を払った。多くの利用者は現状維持または減少傾向であるが、2名の入居者は加齢の影響や自身による完食の影響により体重が増加した。その他、風邪症状、皮膚疾患、歯科・眼科検診等、必要に応じて通院同行を行った。今年度は疾病により1名が手術、1名が病院での長期療養を余儀なくされた。2名とも体調は回復しつつあるが、引き続き様子の変化等を職員間、関係機関等と共有する他、今後は医療機関との連携について検討する必要がある。その他の入居者については、大きく体調を崩すことはなく安定して過ごすことができた。

- 2) 感染症等の感染症対策を行う。

##### 【成果と課題】

日常的に検温、手洗い、消毒等の基本的な感染対策を行い、ホームでの生活において感染症に罹患した入居者はいなかった。

#### 1.5 防災計画

災害時避難訓練を年2回実施した。